

展示会のご案内

- ◇展示資料館 1F (9/19~10/14)
- 私の好きな花たちの写真展
- ◇展示温室 (9/28~10/14)
- サボテン展
- ◇屋外展示場 (10/5~10/10)
- 秋の山野草展

ノイバラ(バラの実)

(バラ科)

この時期になると、生花店でノイバラやスズバラの実が出回ります。また、ハマナシやロサ・カニナなどの大きな実はローズヒップと呼ばれ、ハーブティーやジャムなど食用に供されます。秋バラの花も少しずつ咲き進んでいます。

シュウメイギク

(キンポウゲ科)

名前に菊とついていますが、アネモネの仲間です。花びらのように見えるのはガクで、花びらはありません。

ダリア (キク科)

花が牡丹に似ているので、テンジクボタンとも呼ばれます。メキシコの高原地帯の原産で、夏の暑さは苦手です。地下部はサツマイモ様の塊根ですが、耐寒性はなく花後に掘りあげが必要です。

フジバカマ (キク科)

秋の七草の一つ。淡い赤紫色の花が咲いています。環境省準絶滅危惧種(NT) 園芸店で販売されているもののほとんどは雑種です。8日と13日にアサギマダラ観察会を行います。

アサザ (ミツガシワ科)

ユーラシア大陸に広く分布する多年生の水草。スイレンに似た葉を水面に浮かべ、初夏から秋にかけて、鮮やかな黄色の花を咲かせます。かつては、各地の湖沼やため池に見られましたが、今は絶滅危惧種のひとつとされています。環境省準絶滅危惧種(NT)。

アルテルナンテラ (ヒユ科)

カラーリーフの代表的な植物です。花壇の縁取りや寄せ植えに多用されます。和名はモヨウビユ。中～南米原産で、現地では多年草ですが、霜に当たると枯れるので1年草扱いをします。

マユハケオモト

(ヒガンバナ科)

アフリカ大陸に自生する球根植物。花姿が眉刷毛(アイブロウブラシ)、葉が万年青(オモト)に似ていることが和名の由来です。

ハマオモト (ヒガンバナ科)

アジアの広域に分布する海浜植物で、分布の北限は年平均気温15℃の線と一致します(ハマオモト線)。種子は海流によって運ばれます。

ブラジルヤシ (ヤシ科)

カナリーヤシに似ていますが、葉が粉白色を帯び、白っぽく見えるのが特徴です。本種の含まれるヤタイヤシ属の果実は「ゼリーパーム」と呼ばれ、食べられます。国内で流通するもののほとんどは交雑種でココスヤシと総称されています。

